

特集

1 FTTH本番! “ギガ”で顧客争奪



FTTHはアクセスライン1Gの高速性と光IP電話というキラーアプリケーションを得て、ブロードバンドサービスの主役に踊り出ようとしている。2010年3000万回線の大目標に向けて第1歩を踏み出したNTT東西と、追随する他キャリアの動向を整理した。(本誌・藤田 健)



市場離陸は今度こそ本物 見えてきた500万加入

ここ数年、期待され続けながら伸び悩んだFTTH。2004年度はアクセスライン1Gのサービスが追い風になり、初めて100万以上の加入増となった。通信キャリア各社のサービス・営業体制が整った05年度は、ブロードバンドインフラの主役となる。

「2004年度のBフレッツ加入目標の60万には届かなかったが、ここ数カ月は今までと違う手応えを感じている」——NTT東日本の三浦惺社長は5月12日、04年度の決算説明会でこう語った。

同社のBフレッツ加入数は昨秋、毎月の純増が4万に達し、この3月には5万に増えた。例年、引越しシーズン後の4月以降は伸びは鈍化するのだが、4月はさらに伸びて6万になった。「連休明けも好調に推移しており、5月の純増数はさらに伸びるかもしれない」と、早くも05年度100万加入の目標達成に向けて手応えを感じている。

一方、NTT西日本の森下俊三社長は、「加入は順調に増えており、4月の純増は4万強。5月下旬には戸建て住宅向け“ひかり電話”の提供を開始するので、これをきっかけに加速するだろう。05年度80万は高い目標だが、挑戦すれば達成可能な範囲だ」と自信を見せている。

04年度は、NTT東西合わせて120

万加入の目標を掲げて積極展開を開始した。他社もこれに挑戦する形になって市場は急伸。最終的に250～260万回線規模になった模様だ。03年度が114万回線強だったので、2倍以上に成長したことになる。

“ギガ”の登場で急伸

04年度にここまでの高成長が達成できた理由は何だろうか。最も大きな要因として、「ギガサービス」の登場があげられる。

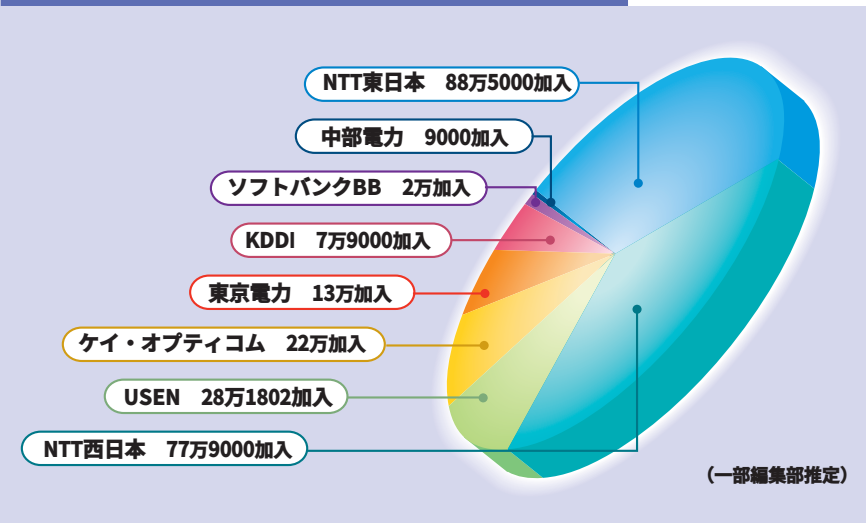
同サービスは、04年10月にソフトバンクBBが発表した「Yahoo! BB光」が先駆けになった。GE-PON技術を利用して局舎からユーザー宅までを1Gbps回線で結び、最大32ユーザーで共有するものだ。最大100Mbpsを謳うことは変わらないが、従

来は100Mbpsの回線を共有していたので、32人が同時利用した場合でも約3Mから約30Mbpsへと大幅に実効速度が向上する。このため現状では、まったくストレスを感じることなく、サービスを利用できる。

従来、NTTのダークファイバーを借りる時は、回線だけでなく、両端に接続する機器を含めて借りる仕組みだった。ソフトバンクBB・コンシューマ光サービス企画本部データサービス部の高橋正人部長によれば、「公正取引委員会の後押しもあり、NTT東西それぞれと光ファイバー回線だけを借り受けるための協定を結ぶことができた。また、GE-PONシステムが技術的にも価格的にも成熟してきたことがギガサービスの開始を可能とした」という。その後、NTT東西やKDDIも同社に追随した。

FTTHサービスには、キャリアの局舎からユーザー宅までを1本の光ファイバーで直結するSS(Single

図1 主要FTTHキャリア8社の加入数(2004年度末)



GE-PON
PON (Passive Optical Network) にギガビットイーサネット (GE) 技術を取り込み、1Gbpsの高速伝送を実現したシステム

Illustration/Y. Ikawa